城跡の公園化と歴史的環境の整備

田 畑 貞 寿*
宮 城 俊 作*
内 田 和 伸**

Several Issues on the Development of Historic Parks in the Old Castle Sites

Sadatoshi TABATA
Shunsaku MIYAGI
Kazunobu UCHIDA

摘要：本研究では、わが国の近世城郭跡の保存と活用を目的とした公園化による環境整備がどのようにすすめられているのかを明らかにし、史跡保存のため新たな史跡公園化の方途を探ることを目的とした。国内90ヶ所の城址公園を対象として行った調査により、多くの事例において史跡指定→指定地内の土地公有化→施設の移転→遺構の発掘調査→復元整備→史跡公園化といった事業のプロセスが確認された。

1. はじめに

わが国では1960年代の高度経済成長政策によって開発が急激に進む一方で、自然環境や歴史的環境の破壊が起った。平城宮跡をはじめとし、各地での歴史的環境の保存と再生は極めて重要な課題となっており、特に地域の個性を守り育てることと、歴史的な景観を保存していくことのつながりが認識されている。日本の近代都市の多くは城下町を核として発展してきたが、その中心たる城郭跡では、遺構の保存を図るとともにこれを広く一般に公開し、歴史的環境に親しむことを目的とする公園が整備されてきた。これらの歴史公園では、城郭の形態、景観を生かした整備を図り、遺跡、遺構を保存しつつ市民の歴史的環境の学習や余暇活動の場として施設整備が行われ、地域の象徴的なランドマークとして整備されてきた。特に著しい変化が見られるのが近世の城郭跡であり、城址公園と呼ばれている都市の中央公園的性格をもつものが少なくない。本稿では、以上のような背景のもとに近世城郭に立地した城址公園をとりあげ、公園内部の空間変容の実態調査を行ない、都市の中心的な公園像あるいは城跡の保存と環境整備の観点から考察するものである。

2. 研究の内容と調査方法

(1) 城跡及び城址公園の変遷と環境整備

城下町の変化については、歴史地理学の分野で研究がなされ、矢守一彦¹⁾が小葉田亭の総括的研究を紹介し、そのなかで郭内の土地利用の変化を1934年の時点で調査した結果を分析している。これによると郭内に含まれる傾斜地部分の土地利用として公園や神社が当てられてい

るのは、市制施行都市および中小町村を問わず半数以上である。また、明治時代における枢要都市では、師団司令部、兵営、その他軍用地に当てられているものが多く、中小町村では官公庁や公立学校があり、この両者で大半を占めている。これは廃藩によって旧城地がすべて兵部省の管轄下に入ったためである。戦後、軍の施設跡地が官公庁施設、公園などに転化した。本研究では以上のことがらをふまえて、土地利用の変化のなかで公園として設置されたものについて調査を実施した。

城址公園自体については、大政官布達による公園のなかで、俵²⁾が地方中核都市における城址公園が中央公園として極めて有利な条件を持ち、城跡内あるいは隣接地の公共建設物の移転等が将来実施される場合には、極力その跡地を歴史的風土の保全を兼ねた公園として、拡張整備することが望ましいとしている。また、公園内部空間の変容についての研究は少なく、赤坂³⁾などによる戦災復興小公園の物理的な変化を追跡した内容のものはあるが、総括的に城址公園の内部空間の変遷を扱った研究は見られない。したがって空間の変容についてはこれらの研究方法を参考にして行なうこととした。遺跡の環境整備については、平城宮跡の整備が、田中、渡辺⁴⁾によって報告され、平城京跡の発掘調査を通して古代庭園の立地と意匠などについて田中⁵⁾がふれている。また近藤⁶⁾らによる歴史的文化的財整備の修景計画が報告されている。しかしながら城郭の公園整備や城跡の環境整備についての報告は少なく、多くの城跡の個別的な現状調査の報告は見られるが、環境整備手法を中心に調査した内容の研究は少ない。

*千葉大学園芸学部造園学科 **㈱五洋建設

これらについては、①文化財保護法に基づく史跡の指定と史跡環境整備事業等の適用、②都市公園としての整備、③都市緑地保全法や近郊緑地保全法による緑地保全地域の指定、④古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法、⑤各自治体による独自の施策による保全と

表－1 調査対象城址公園

No.	県	公園の名称	市町村	設置	城名	指定	No.	県	公園の名称	市町村	設置	城名	指定
1	青森県	唐平公園	弘前市	市	弘前城	国	46	三重県	松阪公園	松阪市	市	松阪城	県
2	山形県	城山公園	三戸町	市	三戸城	国	47	九尾公園	鹿嶋市	市	鹿嶋城	県	
3	岩手県	岩手公園	盛岡市	市	盛岡城	国	48	白鳥公園	上野市	市	上野城	県	
4	鳥谷公園	花巻市	市	花巻城	市	49	亀山公園	亀山市	市	亀山城	市		
5	宮城県	青森公園	山形市	市	青森城	市	50	横手公園	大田市	市	大田城	市	
7	秋田県	千秋公園	秋田市	市	久保田城	国	51	横手公園	高山市	市	高山城	市	
8	新潟県	横手公園	横手市	市	横手城	市	52	横手公園	横手市	市	横手城	市	
9	大分県	大分公園	大分市	市	大分城	市	53	大分公園	大分市	市	大分城	市	
10	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	54	大分公園	大分市	市	大分城	市	
11	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	55	大分公園	大分市	市	大分城	市	
12	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	56	大分公園	大分市	市	大分城	市	
13	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	57	大分公園	大分市	市	大分城	市	
14	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	58	大分公園	大分市	市	大分城	市	
15	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	59	大分公園	大分市	市	大分城	市	
16	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	60	大分公園	大分市	市	大分城	市	
17	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	61	大分公園	大分市	市	大分城	市	
18	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	62	大分公園	大分市	市	大分城	市	
19	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	63	大分公園	大分市	市	大分城	市	
20	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	64	大分公園	大分市	市	大分城	市	
21	群馬県	前橋公園	前橋市	市	前橋城	市	65	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国
22	埼玉県	水城公園	行田市	市	忍城	県	66	徳島県	徳島公園	徳島市	市	徳島城	市
23	埼玉県	水城公園	行田市	市	忍城	県	67	香川県	王宮公園	高松市	市	高松城	県
24	千葉県	佐倉公園	佐倉市	市	佐倉城	市	68	香川県	高松公園	高松市	市	高松城	県
25	千葉県	佐倉公園	佐倉市	市	佐倉城	市	70	愛知県	城山公園	松山町	市	松山城	県
26	神奈川県	小田原公園	小田原市	市	小田原城	国	71	千葉県	城山公園	宇都宮市	市	宇都宮城	県
27	新潟県	新潟公園	新潟市	市	新潟城	県	72	新潟県	新潟公園	新潟市	市	新潟城	県
28	新潟県	新潟公園	新潟市	市	新潟城	県	73	新潟県	新潟公園	新潟市	市	新潟城	県
29	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	74	新潟県	新潟公園	新潟市	市	新潟城	県
30	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	75	福島県	磐城公園	中村市	市	中村城	市
31	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	76	福島県	磐城公園	福島市	市	福島城	県
32	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	77	佐賀県	城山公園	北九州市	市	小倉城	市
33	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	78	佐賀県	城山公園	佐賀市	市	佐賀城	県
34	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	79	佐賀県	城山公園	佐賀市	市	佐賀城	県
35	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	80	長崎県	長崎公園	長崎市	市	長崎城	市
36	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	81	長崎県	長崎公園	長崎市	市	長崎城	市
37	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	82	熊本県	熊本公園	熊本市	市	熊本城	市
38	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	83	熊本県	熊本公園	熊本市	市	熊本城	市
39	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	84	熊本県	熊本公園	熊本市	市	熊本城	市
40	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	85	熊本県	熊本公園	熊本市	市	熊本城	市
41	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	86	大分県	大分公園	大分市	市	大分城	市
42	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	87	宮崎県	宮崎公園	宮崎市	市	宮崎城	市
43	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	88	鹿児島県	鹿児島公園	鹿児島市	市	鹿児島城	市
44	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	89	鹿児島県	鹿児島公園	鹿児島市	市	鹿児島城	市
45	山形県	鶴岡公園	山形市	市	山形城	国	90	鹿児島県	鹿児島公園	鹿児島市	市	鹿児島城	市

元文5年城内地割図 (1740年)
出典：佐賀市史

1886年 (明治19年)

1933年 (昭和8年)

1988年 (昭和63年)
● 学校 ■ 行政施設 ▲ 民間施設

図－1 佐賀城跡の空間変容

整備などがあげられるが、ここでは、①の文化財保護法に基づく史跡の指定と史跡環境整備事業や、②都市公園などの整備等による内容について考察を行なうこととした。

(2) 調査対象と調査方法

本研究では、調査対象を以下の条件により選定した。

①『日本公園百年史』⁷⁾によって、著名な公園として沿革が記されているもののうち城跡に立地したもの。②1615年(元和元年)の一国一城令以後存在した城跡(陣屋跡は含まない)であり城下町を形成したもの、③②の条件を満たすが『公園百年史』に洩れた著名な城址公園4つを加えた。これに一国一城令により廃城となったが城郭として幕末まで保全された高岡城跡の古城公園も加えた。以上のような条件によって選定された対象公園90ヶ所の概要を表－1に示す。

調査は、対象となった城址公園のある各自治体の文化財関係のセクションと公園緑地関係のセクションに、郵送による調査票への回答と資料提供を依頼する方法をとった。その内容は、城跡自体の概要、保存整備などがかわる図書類、城址公園に関する沿革、施設の変遷等にかかわる図書類等である。

(3) 城跡と城址公園の変遷と環境整備調査

江戸時代の軍学者は城郭を地形、防御区域、広狭、堅固、性質等により分類していたようである。郭の配置を中心とした城の平面構造のことを縄張りと呼ぶが^{7) 8)}、本研究ではこの縄張りや遺構に注目して調査を行なうこととした。普請(土木)は堀、土塁、石塁、武者走り、犬走り、虎口、馬出、天主台など、作事(建築)は、堀、櫓、多門櫓、天守閣、門、橋などについて整理する。ただし、城跡の変遷については90ヶ所すべてについて行なうのは困難であるため佐賀城跡をケーススタディとして取り上げ、道路、堀、水面などの変化をトレースし比較考察している。また城址公園の変遷については城の絵図、遺構復元図、公園指定時と現在の公園平面図から動線と諸施設の変化を検討することにした。このうち公園の沿革、史跡指定の状況から4公園を抽出し、公園施設の導

入、廃止、移転について調査し、変遷の模式図を作成した。また、城跡の環境整備の実態については、自治体の関係セクションに調査票を郵送し、それに対する回答をお願いした。その結果ならびに関係報告書をもとに整理し、必要に応じて現地調査を行なっている。

3. 城跡と城址公園の変遷

(1) 城跡の変遷

廃城後の城跡の変遷について、立地的には平城である佐賀城跡をとりあげる。地割復元之図（1740年）、地形図（1886年）、1902年（明治35年）以降の1/10,000 地形図、1/2500都市計画図をベースに道筋と城内の水面の変化などから城跡の変遷を検討する（図-1）。

城郭を特徴づけるのは、防備のために設けられた複雑な縄張りとし虎口をはじめとする本丸への到達が容易にできない屈曲した導入路をもつ空間構造である。堀も導入路と重層的に配置され、本丸、二の丸、三の丸、西の丸などを配し、北西側は家臣の屋敷としていた。

1886年（明治19年）の街路網をみると、城下町に特有

図-2 城址公園の空間構成の変容（模式図）

なT字路の屈曲が多くみられ、街路の直線部分は長くても280 m 程度になっている。場内における水面は複雑で、本丸、二の丸と他の郭を分ける堀、城内に北から入り城内中央で向きを東にかえる河川、その河川から枝のように延びる水路の3種類で構成されている。城内では道路と水面には大きな変化は見られない。しかし、1902年から1912年頃には、郭内の大部分が中学校、女学校、商業学校、師範学校などや公園、刑務所などの用地に変えられ、城内の道路はこれらの施設利用に供する道路としてつけかえられ、空間構成は一変した。

現在は、佐賀県庁はじめ、国、県、市などの文化、厚生、教育施設が林立し、城内の土地はこれらの施設で細分化されており、城跡の遺構をトレースすることも難しくなっている。つまり、近代的な合理主義ののった都市計画道路の整備や、大規模都市施設の城内集中がもたらした例である。このように明治期から今日までに佐賀城跡のような変遷がみられる事例は数多いが、現在ではこれらの城内の諸施設を城外に移転し、城内の環境整備を行う必要性が主張され、新たな公園化が進められているところもある。

(2) 城址公園の変遷

城址公園の変遷は、①利便性向上のための動線の変化、②大規模な施設化による遺構の破壊、③市民の多様なニーズに応じた各種公園施設の導入などの観点から考察することができる。ここでは国指定特別史跡となっている姫路城跡・姫路公園、国指定史跡高遠城跡・高遠公園、富山県指定史跡・高岡城跡高岡古城公園、岡崎市指定史跡・岡崎公園の変遷から実態を捉えてみた。

①姫路公園：明治政府により1870年時点では城郭の位置が認められたが、本丸と姫山以外は軍関係の施設でしめられており、太平洋戦争が終るまで存続した。1925年時点では、軍備縮小のため兵舎の一部は学校用地に転用されている。1928年には史跡名勝天然記念物法により姫路城は史跡に指定され、その後1931年には建造物が国宝の指定を受けた。しかし本丸、姫山以外は終戦まで軍施設用地として存続し、終戦直後の混乱期に国、県、市の諸施設や学校、市営住宅などが建設され、佐賀城跡と同様な様相を示した。その後、公園施設がとり入れられ、1950年の文化財保護法制定により、1956年に特別史跡に指定されている。すでに城内の公園化区域65 ha から諸施設の移転を図っている。

②高遠公園：高遠城跡は1872年に明治政府兵部省の管理下におかれ、建物は民間に払い

下げられたため荒廃する。翌1873年には大政官布達に基づき、1875年に本丸、笹郭、勘助郭、南郭を借受け、馬場跡から桜を移植し公園とした。この公園の変遷で注目すべきは、公園整備特に堀跡の運動場設置によって遺構が破壊されている点である。また石碑の建設、土橋の建設などによる遺構の変化をもたらしている。

このように1960年代に各種の施設が設置されたが、今日では公園関係施設以外は城外に移転している。

③高岡古城公園：1875年に公園設置の運動が展開され、翌1876年には公園として正式に指定され、その後積極的な公園整備が行なわれている。1939年に富山県史跡に指定され、1950年には風致地区の指定を受けた。1956年には都市公園法に基づき都市計画公園となり、1967年には高岡古城県定公園となっている。しかし、園内にある国施設の利用上から橋が架けられ、遺構の保存上から問題となっている。1945年以降、市民施設の増設が目につく。

④岡崎公園：1875年に県より許可をうけ、旧本丸の区域が公園として永く保存されることになった。しかしその後、城郭の北側を迂回していた東海道が城内を通過したことによって、城郭の空間構成は大きく変貌する。1945年7月の空襲によって諸施設の大部分を焼失したが、戦災復興土地区画整理事業などにより総合公園として整備されてきた。したがって1945年までに多くの市民施設や公園施設が設置されたが、これらの施設が消失したために公園としての性格は純化されている。

以上、城跡や城址公園の具体的な事例についてその変遷を考察したが、これらを通じて言えることは、多くの

城跡も佐賀城跡のように、都市の中心部にあるために大規模な都市施設に占有されることになり、城郭の空間構成の特性が失われてしまったことである。そして象徴的空間としての城跡のイメージが消失してしまっている事例も多い。また城跡を公園化したいいわゆる城址公園と呼ばれる公園の園内施設と遺蹟、遺構などとの関係を2、3の事例からみだが、公園施設や都市施設の立地による園路の付替、大規模公園施設の立地による遺構の破壊が生じており、城跡の保存と公園利用の調整が必要となっている。

4. 公園化による城跡の環境整備

前述のように城跡の保存はたいへん厳しい状況におかれていることがわかる。これらの保存事業や環境整備事業に関してその基礎となる諸条件を自治体ではどのように認識し、いかなる構想を持っているのかについて関係者に質問票に対する回答を求めた。これをもとに『日本公園百年史』、『日本公園緑地発達史⁹⁾』などを参考として考察を試みる。なお()内の数字は件数を示す。

(1) 城跡の保存整備

①公園の成立まで城跡をどこで管轄していたかをみると、当時の兵部省(17)、県有地又は市町村有地(18)、旧藩主地(11)、民間(9)、その他(8)などの順となっている。

②公園と城跡との関係では、城跡の中に公園があるものが(46)、公園の中に城跡がある(10)、城跡と公園が一部重なるまたは接近が(5)などで、城跡の中に公園が指定されたものが多い。

③城跡が史跡に指定されているもの(42)、指定されていないもの(21)となっており指定の内容は、国(22)、県(11)、市町(9)の順となっている。

④史跡に指定されたのち面積が変化していないもの(20)、拡大されたもの(10)となっている。

⑤城跡内の神社等々について現在あるもの(31)、あったが現在は無い(8)、ない(15)となっていて明治期につくられたものが多い。

⑥文化財保護条例は、ほとんどの市町で設置されており、史跡内の現状変更は、許可制(37)、届け出制(22)、その他承認制など(3)がとられている。

⑦埋蔵文化財の有無は有(51)、無(9)。これらの発掘調査を行なった(41)、行なわない(21)で、行なった目的は土木工事のため(31)、学術的なもの(11)、その他(5)となっている。

⑧教育委員会の文化財関係で史跡の整備として行なっていることでは、標柱の設置(41)、説明板設置(50)、発掘調査(31)、となっている。また、保存管理計画や史跡埋蔵整備計画の有無は、ある(37)、ない(20)、計画中(2)。その主な内容は、委員会の設置(12)、施設

(2) 大規模公園施設の立地による遺構の破壊

図-3 城址公園における空間構成の変容と遺構の破壊

表-3 城趾公園の規模と種別

種別	近 隣 公 園	地 区 公 園	総 合 公 園	風 致 公 園	歴 史 公 園	そ の 他
～2ha	猪苗代(2) 宇都宮(1.6) 調布(1.5) 鹿島(2.1)					大洲() (緑地)
～5ha	花巻(3.2) 大洲(3.0)	米沢(4.2) 佐野(4.4) 大田原(4.1) 小松(4.1) 長野(5.3) 飯山(5.1) 大塚(3.1) 臼杵(5.3)	甲府(5.5)	唐津(3.7)	延岡(4.5)	
～10ha	鹿屋(8.4)	新発田(5.7) 富山(6.6) 桑名(7.8)	盛岡(8.7) 沼田(10.2) 小田原(11.0) 松坂(6.8) 山口(11.7)	高崎(7.0)	岡山(7.0) 高松(7.9) 高知(10)	津山(8.5) 島原(9.5) (特殊公園)
～20ha		道野(14)	秋田(18.2) 本荘(14.7) 福岡(12) 前橋(15.6) 岩槻(17.8) 上田(18.1) 静岡(18.1) 浜松(10.7) 豊後(21.6) 上野(12.6) 池島(18.9)	大野(11.4) 中村(10.8) 大宮(21.1) 丸亀(20.5) 鹿児島(15.6)	岡崎(18.9) 大和郡山(17.2)	
～30ha			三戸(27.8) 高岡(22.8) 高山(22.5) 北九州(20.1) 佐賀(24.6)	佐倉(20.7) 松江(21.5) 萩(21.1) 丸亀(20.5)		
～40ha			仙台(40.5) 山形(35.9) 彦根(35.9) 福岡(37.4)			
40ha～			弘前(48.2) 上越(47.3) 姫路(40.5) 名古屋(88.3)		明石(54.8) (広域)	

(2) 城址公園の整備

②用地取得の方法では、無償使用契約(31)、買収(28)、無償取得(寄付等)(27)、有償使用契約(5)、供用(2)、などがあげられている。

④城址公園の規模と公園種別については、表-3に整理されたように、10 ha～40 haまでの総合公園が多く、都市の中心的な位置におかれている。

⑥本丸の空間構造、
園内の本丸跡の有無で
は、ある(60)、ない
(9)、本丸跡は、芝生
広場、庭園的な整備、
天主閣+広場型、神社
の本殿、拝顔社務所、
神社と広場、広場と他
の施設、市町村施設が
占有、などの利用タイ
プを整理することがで

表-4 本丸跡の利用タイプ

略図	タイプ	棟数	公園
A	広場型	0	盛岡 花巻 遠野 山形 猪苗代 大田原 佐倉 上越 静岡 高山 萩
B	庭園型	0	沼田 高遠 大津 山口 佐野 人吉 臼杵 高鍋 秋田
C	天主台+広場型	0	大野 松阪 福岡 甲府 長野 津山
D	天守閣+広場型	1	弘前 松本 浜松 名古屋 彦根 明石 姫路 和歌山 松江 岡山 宇和島 大洲 高知 九尾 北九州 唐津 鳥原 熊本
E	神社型	1	沼尾 飯山 桑名 大和郡山 徳島 大村 八代
F	神社+広場型	1	仙台 本荘 高岡 上田 亀山
G	単柱型	1	上越 越前 鹿屋
H	多柱型	複 数	米沢 鶴岡 小田原 諏訪 岡崎 上野 小松 大垣

— 173 —

きる。(表-4)

⑦公園整備事業基本構想計画などについて、ある(48)、策定中(6)、予定がある(8)、ない(9)などとなっていて、多くの自治体では基本構想計画などをもっていることが伺える。

以上、城跡の環境整備事業では、施設の移転や遺構の発掘調査の展示、修景、堀や石垣等の復元整備等が行なわれる場合が少なくない。ただしこれには、運動施設、図書館、動植物園といった施設の城外への移転が前提となっており、城址公園にふさわしい公園施設を含む市民施設の適正な配置が問われているようである。

5. 総括と問題点

城跡の環境整備事業の内容については、

①史跡の指定、②指定地内の土地の公有化、③史跡と関係のない施設の移転、④遺構の発掘調査、⑤復元整備、⑥史跡の公園化などの手順をとって具体的化している。こうしたなかで、城跡にかかわらず歴史公園としての環境整備では、その歴史的意味を理解し、また地域の景観生態系を把握する必要がある。

本稿では城址公園をとりあげ、明治期から今日まで約120年余にわたる変遷をトレースしてきた。城跡は官公庁の諸施設用地などに利用され、車社会の到来に伴って城内は都市計画道路の貫通により、本丸、二の丸、三の丸、重臣の居住地区や堀などの遺構も含めて、確認できない程度まで改変された事例も多い。

また城跡の公園化による保存も100年前後の間になされたものもあるが、城跡内全体を公園化する方向で検討してきているものはきわめて少なく、今後歴史公園の性格を明らかにするとともにその計画実現手法の検討が必

要とされる。わが国の文化財保存にかかわる制度的、技術的な発展は奈良文化財研究所の開所以来めざましい成果をもたらしている。これらのエネルギーを国際的にも展開し、貴重な遺産の保存と活用のためのマスタープランづくり、その実現方策を検討する時期にさしかかっているものと思われる。その意味において、日本国内に散在する歴史的環境の代表例たる城跡の保存及び歴史的環境の整備は、重要なメルクマールとなるべきものである。

最後にこの調査研究を進めるにあたり、文化庁記念物課の安原啓示氏、奈良国立文化財研究所の牛川喜幸氏他多くの方々に協力頂いたことを付記し、謝意を表する次第である。

引用文献

- 1) 矢守一彦(1974)都市図の歴史 日本編 講談社
- 2) 俵 浩三(1985)中核都市における中央公園の歴史的な性格 造園雑誌 第48巻5号, 264-269
- 3) 赤坂 信(1985)戦災復興小公園の変容に見る改造とその過程 千葉大学園芸学部学部報告第35号 47-68
- 4) 田中・渡辺(1975)平城宮跡発掘調査 奈良国立文化財研究所
- 5) 田中哲雄(1987)古代庭園の立地と意匠について『造園の歴史と文化』養賢堂
- 6) 近藤公夫(1982)歴史的景観と修景計画, 造園雑誌 第46巻1号 19-22
- 7) 佐藤 昌(1976)『日本公園緑地発達史』(上巻), 都市計画研究所
- 8) 日本公園百年史発行会(1978)『日本公園百年史』(財)日本公園緑地協会

Summary : A number of old castle sites established during the medieval period and Edo Era have experienced drastic changes of their spatial composition both in and around the sites since the very beginning of Meiji Era. The inner spaces of the sites occupied chiefly by military and public structures in the early stage of the transformation accompanied by the destructions of historical remnants were converted to those with historical values after the archaeological investigation of the sites. The acquisition of the land by local government was followed by, in most cases, registering to the designated historical site, moving out of unrelated structures, and partial restoring of the remnant that led to the development of the historic park on the site.